

新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

1 新型コロナウイルス感染症の感染経路は2つ

- (1) 飛沫感染（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）
- (2) 接触感染（手、肌で触れることによる感染）

2 一般的な予防方法

- (1) 「3つの密（密閉、密集、密接）」を避ける。
- (2) 手洗いと咳エチケットに心がける。
- (3) 不用意に自分の顔、とくに目・鼻・口などの粘膜に触れない。
- (4) 規則正しい生活とバランスの取れた食事にかける。

3 感染を注意すべき関係者

- (1) 選手、チームスタッフ、およびその家族・同居人
- (2) スタッフ：大会役員、競技役員、およびその家族・同居人
- (3) アリーナスタッフやトレーニング施設スタッフ
- (4) 試合運営に関わるスタッフ(警備スタッフ、清掃スタッフも含む)
- (5) チームバスの運転手
- (6) メディア
- (7) 観客

4 関係者全員の毎日の健康チェックと行動記録

- (1) 体温測定：起床直後・就寝前等、体温記録・検温時間を、毎日記録する。
- (2) 問診表チェック：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間など。

【選手、チームスタッフ、大会・競技運営者等】

5 試合前後のトレーニングでの全般的注意事項

- (1) 共通のモノを通じた接触を減らしこまめに消毒する。タオル・ウォーターボトル・防具・スティックなど。
- (2) 全員が感染防止マナーを守る。
 - ①社会的距離（できるだけ2m、最低1m）
 - ②咳エチケット（マスク着用を含む）
 - ③手洗い、手指消毒（70-80%アルコール）
 - ④不用意に自分の顔、とくに目・鼻・口などの粘膜に触れない
 - ⑤握手、ハイタッチ、抱擁は禁止
 - ⑥唾吐きや大声を避ける
 - ⑦控室、トイレなどのドアノブはこまめに消毒

6 練習前後のミーティング

- (1) 実施する場合は、短時間で実施。マスクを着用。社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる。

7 試合開始直前

- (1) ブルーラインの整列は社会的距離（最低 1m）をとる。
- (2) 試合開始直前に行うレフェリーからの注意は試合前に行う。
 - ①実施する場合は、短時間で実施。マスクを着用。社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる手指消毒など標準予防策をとったうえで対応する。
 - ②ホームチームを決める必要のある場合も事前に決めておく。
- (3) 試合開始に先立ち行う挨拶
 - ①レフェリーとの接触を避ける。握手せず社会的距離をとって礼のみとする。
 - ②相手チームスタッフとの接触を避ける。レフェリーも同様。
- (4) 試合前に行う円陣は小さくならないように配慮。
- (5) GK のウオータボトル等は、自分で設置、移動することに心がける。

8 試合中

- (1) ベンチ内は社会的距離を意識して工夫する。
- (2) 選手以外のスタッフはマスク・手指消毒など標準予防策をとること。
- (3) 選手への指示は飛沫感染を意識して少なめに、大声を出さないなど工夫する。
- (4) タオル、飲水ボトル等を共用しない。（個人の物は、個人で運ぶ=スティックなど）
- (5) ヘルメット、マウスガード、ネックガードなどは、プレイ中はずれて、レフェリー、ラインズマンが拾うことがないように正しく装着する。
- (6) 試合中断時のパックは、選手からレフェリー、ラインズマンへの手渡しはしない。プレイヤーは中断時のパックに触れない。
- (7) ゴールテンダーがパックを保持したことによりゲームが中断した場合、そのゴールテンダーはリンク上にパックを置き、ラインズマンがパックを拾い上げる。
- (8) プレイヤーは、ラインズマンとの距離を保つため選手交代時以外は、ベンチに座る。ゲーム中に交代以外の選手がボード沿いに立っているのをラインズマンが確認出来た場合は、そのラインズマンが、当該プレイヤーに注意する。
また、クリアボードが設置されていないペナルティーボックスにいるプレイヤーも同様の措置とする。

9 休憩時

- (1) 控室内でも社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する。
空いている部屋があれば追加の控室として利用できるよう割り当てる。
- (2) 選手以外のスタッフはマスク・手指消毒など標準予防策をとること。
- (3) 選手への指示は飛沫感染を意識して短時間に、大声を出さないなど工夫する。
- (4) 控室の滞在時間を、できるだけ減らす。
- (5) 控室は窓を開けて、換気心がける。控室を離れる際、忘れずに施錠をする。

10 試合終了後

- (1) 試合終了後、両チーム分かれてオフィシャルボックスに向かって社会的距離（最低 1m）

をとって整列する。

- (2) 表彰がある場合、授与者はマスク・手指消毒など標準予防策をとること。
- (3) 握手禁止。写真撮影は選手のみとする。
- (4) 試合結果アナウンス。両方向に向かって礼をしてベンチに戻る。
レフェリーや相手ベンチにはいかない。
- (5) ベンチに戻った選手から、所定の場所で、帰る準備を短時間で済ませる。
- (6) 自宅に戻ったらヘルメットやグラブ、スティック、スケート靴など他人の飛沫がつきやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行う。

1 1 練習場・試合会場へのアクセス

- (1) 自家用車で一人ずつアクセスすることが、推奨される。
- (2) チームバスを利用する場合には、バス会社への事前の依頼事項を徹底する。
 - ①バス乗車人数を減ら各選手間の距離 1.5～2m を確保する。
 - ②着席する際は出来るだけ前後左右に各 1 席の空席を確保し、運行中は移動しない。
 - ③バス内ではマスクを着用する。
 - ④バス内での飲食は控える。
 - ⑤定期的に換気をする。
 - ⑥乗降時には手指を消毒する。

【保護者、観戦者、取材等】*観戦可能な大会時

1 2 試合会場への入場

- (1) 到着時に体温チェックし、37.5 度以上の者は帰宅させる。また、家族・同居者が、直近 14 日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓させる。
- (2) 会場への入場をコントロールする。受付を設置する。
 - ①常時マスクを着用させる。
 - ②来場者全員の連絡先を把握する。
 - ③常に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとらせる。

***無観客試合、観戦可能試合については帯広アイスホッケー連盟のホームページにてご確認下さい**

1 3 取材に関して

- (1) 取材を認める場合下記のような厳格な感染対策をとる。取れない場合は入場を許可しないこともある。
 - ①常時マスクを着用させる。
 - ②常に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとらせる。
 - ③取材前に体温測定し、37.5 度以上の場合、会場から退去させる。
 - ④取材者とその家族・同居者が、直近 14 日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓させる。
 - ⑤緊急時の連絡先を確認する。

《参考資料》

◎ J リーグ新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

内容的にも詳しく的確な記載であるので、一部引用させていただきました。

JIHF「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策としてのアイスホッケー活動再開ガイドライン」

https://www.jihf.or.jp/image_data/EVENT/2379_2.pdf

IIHF「2020_ IIHF_安全にアイスホッケー活動に戻るためのロードマップ」

https://www.jihf.or.jp/image_data/RULE/45_1.pdf

(公財) 日本スポーツ協会、(公財) 日本障がい者スポーツ協会「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideline.pdf>

スポーツ庁「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200514-spt_sseisaku01-000007106_1.pdf

日本スポーツ振興センター「新型コロナウイルス感染症対策としての活動再開ガイドライン」

<https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/katudousaikaiguideline.pdf>